

第一〇號	第九號		第八號					番號	製造月日	貯藏方法及 月檢日	細菌數	細菌增減	病原菌 有/無	貯藏時間	P.H.
	十月十日	十月十五日	十月十日												
室內	同	氷室	同	井水	同	同	室內	同	氷室	同	井水	同	同	室內	
三	二	二	二	二	三	二	二	二	二	二	一	三	三	三	
10,10	10,17	10,15	10,17	10,15	10,17	10,15	10,14	10,13	10,14	10,13	10,13	10,14	10,13	10,10	
1,800	200,000	27,500	31,500	27,500	80,100	33,500	12,500	28,700	110,000	26,700	26,100	100,000	100,000	6,500	
	107,000	20,000	11,800	7,700	22,000	11,000	112,000	3,100	2,000	2,100	2,100	2,700	2,600		
五	六	四	六	四	六	四	五	六	四	六	四	六	四	五	
五・八	五・七	五・七	五・七	五・七	五・七	五・七	五・八	五・八	五・八	五・八	五・八	五・八	五・八	五・八	

第一〇號	第一一號					第一二號									
	十月十日					十月五日									
同	同	氷室	同	井水	同	同	同	氷室	同	同	同	同	同	同	同
三	二	二	二	二	三	二	二	二	二	二	二	二	二	二	三
10,13	10,14	10,13	10,14	10,13	10,13	10,14	10,13	10,13	10,14	10,13	10,13	10,13	10,13	10,13	10,13
2,100	1,000	2,700	2,700	2,700	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	2,100
2,700	200	2,700	2,700	2,700	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	2,700
四	六	四	六	四	六	四	六	四	六	四	六	四	六	四	六
五・八	五・八	五・八	五・八	五・八	五・八	五・八	五・八	五・八	五・八	五・八	五・八	五・八	五・八	五・八	五・八

番 號	製造月日	貯藏方法及 温度	月 日 査	細 菌 數	細 菌 増 減	有 病 原 菌 否	貯 藏 時 間	P.H.
第一二號	十月五日	井水	10.7	47,000	49,100	—	六	5.6
		氷室	10.7	101,000	126,000	—	六	5.6
		同	10.9	52,000	52,700	—	六	5.6
		室内	10.5	33,000	—	—	五	5.8
		同	10.7	82,000	130,000	チフス菌 10	六	5.8
		同	10.7	10,000	103,000	—	六	5.8
		井水	10.7	70,000	118,100	—	六	5.8
		同	10.9	2,100	103,000	—	六	5.8
		氷室	10.7	72,000	113,700	—	六	5.8
		同	10.9	3,200	127,100	—	六	5.8
第一三號	十月七日	室内	10.2	18,000	—	—	五	5.8
		同	10.2	51,000	100,000	—	六	5.8
		同	10.3	18,000	—	—	六	5.8
		同	10.3	11,000	—	—	六	5.8
		氷室	10.7	72,000	113,700	—	六	5.8
		同	10.9	8,000	131,000	—	六	5.8
		井水	10.7	70,000	118,100	—	六	5.8
		同	10.9	2,100	103,000	—	六	5.8
		氷室	10.7	72,000	113,700	—	六	5.8
		同	10.9	3,200	127,100	—	六	5.8
第一四號	十月十九日	同	10.2	15,000	108,000	—	六	5.8
		井水	10.2	11,000	37,700	—	六	5.8
		同	10.3	18,000	—	—	六	5.8
		同	10.3	51,000	100,000	—	六	5.8
		室内	10.2	18,000	—	—	五	5.8
		同	10.2	51,000	100,000	—	六	5.8
		同	10.3	18,000	—	—	六	5.8
		同	10.3	11,000	—	—	六	5.8
		氷室	10.2	72,000	113,700	—	六	5.8
		同	10.3	3,200	127,100	—	六	5.8

前表ニ依レハ製造當日最少數ナルモノニシテ尙ホ且ツ1cc中四百六十。最も多數ナルモノハ三十一萬三千八十ノ細菌數ヲ有シ、時間ヲ經過スルニ從ツテ増加シ五十六萬七千六百四十二達ニセリ。概シテ室溫中ニ貯藏スルモノハ其ノ増加率大ナルモノノ如シ

三、蜜柑水中ノ病原菌

蜜柑水五〇例ノ検査ヲ施行シタルニ六〇%ニ大腸菌ヲ證明シ二例ノ腸チフス菌ヲ檢出セリ

四、蜜柑水中病原菌ノ生存期間

元來清涼飲料水ハ概シテ酸性ナルヲ以テ到底病原菌ノ生存ヲ許ササルモノナリト想像セルニ拘ラス前述ノ如ク蜜柑水中ヨリ大腸菌及チフス菌ヲ檢出セルヲ以テ試ミニ人工的ニ病原菌ヲ混和シ其ノ生存期間ヲ試驗セシニ其成績左ノ如シ

第一五號	十月十三日	同	氷室	同	室内	同	同	同	井水	同	氷室	同
10.13	10.13	10.13	10.13	10.13	10.13	10.13	10.13	10.13	10.13	10.13	10.13	10.13
21,000	27,000	27,000	27,000	27,000	27,000	27,000	27,000	27,000	27,000	27,000	27,000	27,000
21,000	27,000	27,000	27,000	27,000	27,000	27,000	27,000	27,000	27,000	27,000	27,000	27,000
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六
5.8	5.8	5.8	5.8	5.8	5.8	5.8	5.8	5.8	5.8	5.8	5.8	5.8

時間	菌種		志賀菌	駒込A菌	駒込B菌	大腸菌	P.H.	氣		検査月日
	腸チフ	パラチ						最高	最低	
六時	+	+	+	+	+	+	五・六	同	同	一一、一三
一八時	+	+	+	+	+	+	五・六	同	同	一一、一三
四二時	+	+	+	+	+	+	五・六	同	同	一一、一四
六六時	+	-	-	-	-	+	五・六	同	同	一一、一五
九〇時	+	-	-	-	-	+	五・六	同	同	一一、一六
一一四時	-	-	-	-	-	+	五・六	同	同	一一、一七
一三八時	-	-	-	-	-	-	五・六	同	同	一一、一八
一六四時	-	-	-	-	-	-	五・六	同	同	一一、一九
一八八時	-	-	-	-	-	-	五・六	同	同	一一、二〇
二一二時	-	-	-	-	-	-	五・六	同	同	一一、二一

即チ生存期間ハ右表ノ如クチフス菌及バラチフス菌ハ九十時間。赤痢菌ハ百十四時間生存シ、大腸菌ハ十日目ニ尙ホ之ヲ證明セルモソレ以上ノ検査ハ中止セリ

五、蜜柑水製造工場敷設ニ製造高

郡市別	工場敷	製造高	郡市別	工場敷	製造高
徳島市	一八	五二四、六五二 <sup>石</sup>	板野郡	八	二三〇、五七八 <sup>石</sup>
名東郡	一一	一六〇、七〇五	阿波郡	二	一一、七〇〇
勝浦郡	五	八三、三三九	麻植郡	一	一一、八〇〇
那賀郡	一六	四九六、八八〇	美馬郡	三	一一、八〇〇
海部郡	五	三三、八九六	好馬郡	二	九、〇四九
西郡	四	五五、〇八〇	計	六四	一、六〇八、六七九

種類	検査数	同上有毒数	同上百分比	處	告發件数	廢棄数	分	有理由
ラムネ	三二一、六〇二	一一、一五三	三・四六	三九	一一、一四	沈澱濁濁他物等混入		
蜜柑水	二一九、〇九〇	八、六七一	三・九五	一九	八、六五二			
肉桂水	九四、八二五	五、一三三	五・四二	九九	五、〇三四			
サイター	二五、二二四	三三四	一・三六		三三四			
其他	四五二	九	一・九九		九			

縣下ニ於ケル蜜柑水製造工場敷六十四  
製造高一千六百八石餘ニ達ス

清涼飲料水取締状況

大正十四年赤痢流行時ニ於ケル清涼飲料水取締成績左ノ如シ

種類	検査数	同上有寄数	同上有百分比	處分		有害理由
				告發件数	廢棄数	
計	六六一、一九三	二五、三〇〇	三・八三	一五七	二五、一四三	

検査件数六十六萬一千九百九十三件中有害トシテ處分セル件数二萬五千三百件ナリ

即チ飲食物取締ニ關シテハ内務省令警察犯處罰令第三條第九號同、縣令等ニ依リ覆蓋無キモノ腐敗、不熟、他物混入、沈澱等ノ場合廢棄又ハ處罰ヲナスニアルモ防疫上ノ效果果シテ確實ナルヤ否ヤニ至リテハ頗ル疑問トセサルヲ得ス現ニ前述ノ如キ危險ナル病原菌及ヒ大腸菌族ヲ檢出セシコトアルニ鑑ミ將來飲食物取締ノ方面ニ對シテハ單ニ化學的檢査ニヨルヨリモ寧ロ却テ細菌的檢査ニ重キヲ置クヘキモノナリト思料ス

### 總括

一、本縣ニ於ケル既往十箇年ノ年次別發生率ハ漸次遞減ノ傾向ヲ示スモ大正十一年同十二年ハ稍高率ヲ示ス、既往十箇年ニ於ケル平均月別發生ノ極期ハ本縣並ニ九州地方ニ於テハ八月ニシテ中國奥羽ハ九月ナルモ關東地方ハ七月ナルカ如シ

本縣ニ於ケル既往十箇年間ノ都市別發生狀態ハ板野郡ニ於テ最モ高率ヲ示ス本郡ハ平坦部多クシテ人口ノ密集貧富ノ差異等他郡ニ比スレハ稍ヤ高キヲ見ル之或ハ本病蔓延ニ影響スルニハアラサルカ

本縣ニ於ケル既往十箇年間ニ發生セル患者ノ年齢性別罹病率ハ三歲迄ニハ殆ント其ノ差異ヲ認メス四歲ニ至リ男二四・一ニ對シ女二一・七ニシテ壯年時ニ至リ著シク減少シ殊ニ男子ニ比シ女子ハ低率ナリ老年ニ至レハ高率ヲ示シ

八〇歳以上ニ至レハ男人口萬ニ付五・一女同九・三ノ差異ヲ示ス

本縣ニ於ケル大正十四年中ニ發生セル赤痢患者ノ職業別ハ五〇九名中農夫並ニ其ノ家族三〇六名ヲ算ス

二、本縣ニ於ケル既往十箇年間ニ發生セル患者ノ治療轉歸平均日數ハ一七・三ニシテ死亡轉歸平均日數六・五九ナリ

既往十箇年ニ於ケル年次別死亡率ハ全國平均二三・七ニ對シ本縣ハ三四・三一ノ高率ヲ示ス

本縣ニ於ケル最近十箇年ノ月別死亡率ハ盛夏流行時ニ於テハ低率ナルモ秋冷ヨリ冬期ニ追ヒ高率ヲ示ス

本縣ニ於ケル最近十箇年間ニ發生セル患者ノ年齢別死亡率ハ二〇歳乃至四〇歳ノ間ニ於テハ一一・四四%乃至一四・六九%ニシテ五歲未滿乃至七〇歳以上ニアリテハ五〇%以上ノ高率ヲ示ス

本縣ニ於ケル最近十箇年間ニ發生セル患者ノ年齢、性別、死亡率ハ一歲乃至三〇歳並ニ五〇歳乃至六五歳ニ於テハ女子ハ男子ニ比シ高率ナルモ三〇歳乃至五〇歳並ニ八〇歳以上ハ男子高率ナリ即チ死亡率ハ罹病率ト反對現象ヲ呈ス

本縣ニ於ケル既往十箇年間ニ發生セル患者ノ地域的死亡率ハ德島市四六・七三、名東郡四五・七二ニシテ最モ低率ナルハ勝浦郡ノ二〇・〇ナリ而シテ死亡率ノ高低ハ流行ノ性質並ニ場所ニヨリテ差異アルモ疫痢患者ノ多少ハ其ノ率ニ影響ヲ及ホスモノノ如シ

大正十三年中ニ發生セル患者ノ療養場所ニヨル死亡率ハ全國ニ於テハ公私立病院收容最モ低率ニシテ隔離病舎ハ之ニ次キ自宅療養最モ高率ヲ示ス

本縣ニ於テモ亦自宅療養ノモノ最モ高率ニシテ公私立病院收容之ニ次キ隔離病舎收容ノモノ最モ低率ナリ

三、赤痢患者發生ノ消長ト氣象トノ關係  
氣温トノ關係ハ氣温上昇ト共ニ患者ノ發生増加シ平均氣温二〇度以上ノ場合ニ最モ高率ヲ示ス

降雨量トノ關係ハ降雨多量ナル場合ハ患者ノ發生少ナキモノノ如シ  
濕度トノ關係ハ高濕ナル場合ニ於テ患者發生率高キモノノ如シ

一、高濕高濕ハ共ニ新陳代謝機能ノ失調ヲ來シ消化器官抵抗力減弱スルヲ以テ從テ感受力亢進スルモノノ如シ  
二、高濕高濕ハ共ニ細菌ノ繁殖ニ適シ從テ食物ハ腐敗シ易ク之レカ醗酵其ノ他ノ作用ニヨリ腸内寄生菌ノ變化又  
ハ變性ヲ惹起シ以テ赤痢病ノ誘因ヲナスニハアラサルカ

三、大流行ハ災異繼續ノ後ニ比較的の多ク之ニ反シ降雨多量ナル年次ニ在リテハ概シテ患者發生數尠シ蓋シ雨期ニハ  
農民ノ勞作減スルト共ニ比較的の身體ノ疲勞尠キニ因ルニハ非ラサルカ

四、大正十三年中ニ發生セル患者ノ傳染系統ハ本邦各府縣市部ニ於テハ原因不明ノ傳染最モ高率ニシテ八一・二九%  
ヲ示シ接觸傳染一二・六九%之ニ次キ飲食物傳染二・九七%水系傳染一・六八%之ニ次ク郡部ニ於テハ原因不明ニヨ  
ル傳染五七・三四%最高率ニシテ接觸傳染三〇・四四%之ニ次キ飲食物傳染四・六六%水系傳染六・一〇%之ニ次ク  
然シテ接觸傳染中ニ於テハ同居ニヨル傳染一五・五九%ニシテ高率ナリ

五、本縣ニ於ケル大正十三年中ニ發生セル患者ノ傳染系統ハ市部ニ於テハ原因不明ニヨル傳染最モ多ク四五・〇〇%  
ニシテ接觸傳染之ニ次キ二三・〇二%飲食物傳染二・二二%水系傳染一〇・〇二%ナリ郡部ニ於テハ接觸傳染最モ  
多ク四八・二八%ニシテ原因不明ニヨル傳染三六・六六%之ニ次キ水系傳染六・〇〇%飲食物傳染二・八四%最モ低  
率ナリ

六、本縣ニ於ケル大正十四年中發生セル患者早期發見ノ爲ニ施行セル檢病的戸口調査ノ結果五〇九名中八一一名ヲ發  
見セリ

七、本縣ニ於ケル豫防接種ハ最近十二箇年間ニ於テ二六七、六四三名ノ被接種者中六五二名〇・二四%ノ罹病率ヲ示

シ同區域内未接種者七四八、五〇四名中罹病者三、四三七名〇・四六%ナリ即チ被接種者ノ罹病率ハ未接種者ニ比ス  
レハ約半數ナリ

八、本縣ニ於ケル菌型ト流行關係ハ大正十四年發生セル患者五〇九名中六七例ニ於テ志賀型三三例駒込菌族三一例  
川瀬フレキシネル三例ヲ檢出セリ

本縣ニ於テハ赤痢菌型多種ナルモ突發的ノモノニハ屢々志賀型菌ノ流行ヲ見ル然シテ志賀型菌ノ流行場所ニ於テ  
ハ流行ノ一過後數年間患者發生ヲ見サル場合多ク非志賀型菌赤痢流行ハ比較的連續發生ヲ經驗スルモ尙後日ノ調  
査研究ニヨリ其ノ信憑ヲ得ントス

九、本縣ニ於ケル大正十四年中ノ赤痢保菌者トシテハ病後ノ排菌者トシテ二七二名中二例ヲ檢出シ檢査回数三九五  
回ニシテ四例ノ陽性ヲ示セリ

然ルニ便ノ性状普通ニ復スルト共ニ菌消失セリ健康保菌者ハ患者ノ檢査三七〇名中保菌者四例ヲ檢出セリ  
夏期ノ流行地ニ於テ終熄約二箇月間經過後患者ヲ出セル家族一〇七名ニ對シ菌檢査セシニ一名ノ健康保菌者ヲ發  
見セリ

大正十三年ニ流行セル區域住民一、〇一六名ニ對シ菌檢査セシニ二名ノ保菌者ヲ發見セリ  
一〇、本縣ニ於ケル流行區域ハ既往十箇年ニ於ケル狀況ヲ見ルニ十九箇所ニ於テ移動セルノ實況ニシテ同區域住民  
ノ血清ハ赤痢菌ニ凝集スルモノ一〇四例中二九例即チ三六%ノ陽性ヲ見ル

一一、大正十四年中本縣ニ發生セル赤痢ニ對スル家蠅ノ關係ニ就テ一流行區域ノ成績ヲ見ルニ徹底的驅蠅施設ヲ行  
ヘルニ一六日間ニ於テ發生患者三六名ヲ以テ終熄ヲ見タリ然レトモ驅蠅施設ト同時ニ輕症患者ノ發見並保菌者ノ  
檢査ヲ努メサレハ其ノ效薄シ

一二、本邦ニ於ケル飲料水ト赤痢ノ關係ヲ觀シカ爲上水道布設前後ノ赤痢患者發生ヲ對比スルニ一九箇所中九箇所ハ布設後患者ノ發生増加ヲ示スモ一〇箇所ハ減少又ハ消失ヲナス

本縣ニ於ケル大正十四年一流行區域ニ對シテ「クロール」石灰ヲ以テ三〇日間持續的ニ消毒ヲ施行セルモ患者續發シ一名ヲ出ス

大正十四年本縣一村落后井水ト大腸菌ノ關係ヲ見ルニ五六五箇ノ井水中八七・四%ノ大腸菌ヲ檢出シタリ

井水ノ化學的成分ト大腸菌ノ檢出率ハ何等意義ヲ認メス井戸ノ構造ハ管井ニシテ「ポンプ」式ノモノハ全ク大腸菌ヲ證明セズ

一三、販賣加熱飲食物ノ大腸菌並ニ病原菌ノ附着ニ付キ大正十四年七月以降之カ檢索ヲ行フニ八月ニ於テハ九五・六%ノ大腸菌ヲ證明シ蠅ノ減少ト共ニ大腸菌ノ檢出率遞減シ蠅ノ全ク終熄セル一月ニ於テモ尙ホ四〇%ノ大腸菌ヲ檢出セリ

検査月數七箇月間ニシテ検査件數八四五例ニシテ「チフス」菌三例「バラチフス」菌B一例ヲ檢出ス

一四、みかん水一cc中ノ細菌數ハ最少四六〇ニシテ最多數ナルモノハ一九八、六四〇ヲ算ス時間ヲ經過スルト共ニ細菌數ハ増加ス

検査品五〇例中六〇%ノ大腸菌二例ノ「チフス」菌ヲ檢出ス

以上記述セルトコロニヨリ聊カ左ニ卑見ヲ陳述セムトス

A、病源ニ對スル處置

一、患者ノ隔離

本病ノ蔓延ハ觸接ニ依ルモノ最多ク就中家族間感染ノ頗ル多キヲ見ル故ニ衛生思想尙ホ幼稚ナル家庭ニ於テハ最

初ニ於テ嚴ニ交通ヲ遮斷シ患者ヲ傳染病院又ハ隔離病舎ニ移シ嚴重ナル隔離療養ヲ爲スヲ要ス

二、輕症患者ノ處置

本病流行時ニ於テ輕症患者ヲ摘發シ適當ナル處置ヲ講セサレハ例ヘ巨額ノ豫防費ヲ投シ幾多ノ豫防施設ヲナスト雖蔓延ヲ制遏スルハ頗ル困難ナリ故ニ流行時ニハ檢病調査ヲ嚴ニシ輕症患者ノ發見ニ努メ一面衛生思想ヲ喚起スルト共ニ尿壺ノ改良ヲ行ヒ以テ病源散布ノ機會ヲ減少セシムルコトヲ要ス

三、保菌者ノ處置

病後ノ排菌期間ハ比較的長期ニ亘ラサルモノノ如キモ患者家族等ニハ屢々健康保菌者ヲ發見スルヲ以テ之カ檢索ヲ大ニ努ムルノ要アリト思考スルモ流行後ノ廣汎ナル區域ニ於ケル保菌者檢索ハ勞多クシテ效少キモノノ如シ

四、小兒胃腸疾患ニ依ル死者ノ處置

赤痢大流行ノ原因ヲ調査スルニ胃腸疾患ノ名ノ下ニ死亡セル小兒ノ家族並ニ近親者ヨリ患者續發セル事例尠カラス故ニ之カ豫防對策トシテハ赤痢流行季節ニ當リテハ小兒ノ急性死者或ハ之等患者ニ對シ臨床醫家ト協力シ菌ノ檢索等ヲ行ヒ以テ初發患者若ハ死者ヲ發見スルノ要アリ

五、野糞(庭糞)ノ處置

赤痢病毒ノ散逸ヲ防クニハ糞壺ノ改良ヲ要スルハ言ヲ俟サル所ナルモ一方野糞ニ對シ嚴重ナル取締ヲ要ス殊ニ農村ニアリテハ小兒ハ殆ント常ニ庭先ニ於テ排便シ爲ニ病毒ヲ散莖スル場合アルヲ以テ之等ノ取締ヲ嚴ニナスコトヲ要ス

B、感染機會ノ豫防

一、衛生思想ノ普及

## イ、衛生教育ノ完備

小學校兒童ニ於ケル赤痢ニ對スル知識ハ概シテ佳良ナルモ尙一層之ヲ高潮スルノ要アリ即チ之カ完備ヲ計ルニハ師範教育ニ衛生ニ關スル科目ヲ課シ小學校教員ノ知識ヲ向上シ小學校ニ於テ十分ノ衛生的生活ノ習慣ヲ養成スルノ要アリ

## ロ、民衆ノ衛生教育

一般民衆ニ對シ衛生思想ヲ普及セサルハ折角小學校ニ於テ涵養シタル兒童ノ衛生的良習ハ家庭ニ於テ破壊セラレルノ惧アルヲ以テ兒童ノ家族ヲ毎月一回位學校ニ誘引シ衛生的講話會ヲ開催シ學校ト家庭トノ衛生的聯絡ヲ密ナラシムルコト

## 二、庖厨ノ改善

農村ニ於ケル庖厨ハ衛生的ニ何等考慮ヲ拂フコトナク本病媒介策源地タルノ觀アリ之カ改善ヲ要スルハ採光、清潔、排水等ナリ之等要素ノ夏季ニ於ケル狀況ヲ觀ルニ蠅ハ自由ニ飲食物ニ蟻集シ主婦ノ衛生的知識ヲ有スルモノ尠ク病者ヲ看護セル主婦カ直ニ其ノ手ヲ以テ飲食物ノ調理ヲナシ病毒ヲ以テ汚染スルノ狀況ナリ乃チ生活ノ基調タル庖厨ノ改善ト主婦ニ對スル衛生教育トハ刻下ノ急務ナリ

## 三、飲食物販賣店ノ取締

イ、飲食物販賣従業者ニ對シテハ保菌者檢査ヲ勵行スルコト

ロ、飲食物調理所ノ構造ニ一定ノ標準ヲ設クルコト

ハ、飲食物貯藏所ハ全部完全ナル防蠅施設ヲセシムルコト

ニ、飲食店ノ用水ハ上水道水又ハ管井ニシテ「ポンプ」式ヲ理想トス

ホ、同業組合ノ設置ヲ命シ時ニ一定ノ場所ニ集合セシメ衛生思想ノ普及ヲ計ルコト

## 四、蠅ノ驅除

蠅ノ驅除ニ對シテハ衛生組合ヲ組織セシメ自衛的驅除策ヲ講セシムルト共ニ一面屋内ハ清潔ヲ保持セシムルコト

## 五、檢病的戸口調査

本病ニアリテハ殊ニ隱蔽ノ風習アルヲ以テ流行時季ノ以前ニ於テ常ニ之カ勵行ヲナスコト

## 六、豫防接種

豫防接種ハ相當效果アルモノナルヲ以テ之カ施行ヲ獎勵スルコト

## 七、清涼飲料水取締ノ改善

清涼飲料水ノ取締上單ナル肉眼の方法ヲ以テスルノミニテハ消化器傳染病豫防ニ對シ效果薄キモノノ如シ又製造方法ニ對シテハ従業者ノ保菌者檢査並ニ製造原料水ハ上水道水及管井ニシテ「ポンプ」式ヲ原則トスルヲ要ス

## 八、飲料水ノ改善

國民大部分ノ飲料水ハ地下水ニ依ルモノナルニ其ノ給水方法不完全ニシテ殊ニ農村ニ於ケル井水ノ八七・四%ハ大腸菌ヲ以テ汚染セラレタルヲ見ル之カ改善ハ本病豫防上急務トスル所ナリ若シ飲料水ヲ井水ニ需ムル場合ニハ管井トスルヲ理想トシ飲料適否判定ハ從來ノ如ク化學的檢査ノ標準ニ因ルコトナク之ニ加フルニ大腸菌ノ有無ヲ標準トスルノ要アリ

大正十五年五月七日印刷  
大正十五年五月十日發行

# 內務省衛生局

印刷者 西 協 嘉 市  
東京市京橋區北橫町九番地

印刷所 一 成 社  
東京市京橋區北橫町九番地  
電話京橋八一三番



